



特集

地域に貢献する内科・ 小児科・外科外来

- 1 ● 感染症から守るためにワクチンの接種を受けましょう
- 2 ● 外来診療部門を拡張し診察室が増え、機能が充実しました



病院の理念

私たちは"真に病院らしい病院"を目指します

病院の基本方針

私たちは生命の尊厳と人権を尊重し、地域の皆様に信頼される病院であるよう努めます。
私たちは皆様に質の高い医療を提供するために知識・技術の向上に努めます。
私たちは感性をみがき、感謝の気持ちを大切に、皆様と感動を共有できるよう努めます。

感染症から守るために

Feature

ワクチンの

日本はワクチン後進国といわれていましたが、ここ10年ぐらいの間に定期接種も増え海外諸国に追いついてきました。それに伴いスケジュールが過密になるという問題も出てきましたが、適切に接種し、ワクチンで予防できる病気から守ることは大切です。

● ワクチンとは

ワクチンとは細菌やウイルスなどの病原体を処理し病原性を弱めたものです。

それを接種することにより病原体に対する免疫をつけ、実際にその病原体にさらされたときに発症を防いだり症状を軽くしたりすることを目的にしています。

● 効果について

初めて実用化されたワクチンである種痘により天然痘は撲滅宣言が出されていますし、以前はほぼ全員が罹っていたはしかは現在ではほとんど見なくなっています。

最近では、インフルエンザ菌b型(ヒブ)に対するヒブワクチンが定期接種になってからヒブによる髄膜炎は激減しました。



このようにワクチンを接種しておくことにより、本来その疾患に罹っていたはずの人がかなりの確率でかからずに済んでいるわけです。

また個々の予防により感染源となる人も減り、社会全体として感染者が減るという集団予防にも有効な手段です。

● 副作用について

接種した部位が腫れたり熱が出たりすることはよく見られますが、通常程度は軽く自然に回復します。もちろんワクチンに限らず投薬、手術など医療行為すべてに関して100%安全ということはありませんが、後遺症を残したり、命にかかわったりするような副作用は極めて稀です。

現在使われているワクチンは、多くの国で有効性が危険性を上回ると評価され、積極的に接種を勧められているものです。

運悪く重い副作用を起こした人には、定期接種の場合予防接種法による救済制度で、任意接種の場合は独立行政法人医薬品医療機器総合機構法による救済制度で対応することになっています。

● 定期接種と任意接種に関して

定期接種は国が一定の年齢になったら受けるように努めなければならないとするワクチンで、B型肝炎(平成28年10月から)、ヒブ、肺炎球菌、4種混合(ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ)、BCG(結核)、MR(麻疹・風疹)、水ぼうそう、日本脳炎、2種混合(ジフテリア、破傷風)、ヒ



接種を受けましょう

トパピローマウイルス(子宮頸がん)があります。定められた年齢の間に接種すれば通常は無料です。

任意接種は、助成がなければ全額自己負担で、おたふくかぜ、インフルエンザ、ロタウイルスなどですが、決して重要ではないわけではありません。

● ワクチンの種類と接種間隔

生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイドがあります。

生ワクチンは生きた細菌やウイルスの毒性を症状が出ないように抑えたもので、麻疹、風疹、おたふくかぜ、水ぼうそう、ロタウイルス、BCG などです。

不活化ワクチンは病原体の成分を精製したもので、B型肝炎、ヒブ、肺炎球菌、百日咳、日本脳炎などが含まれます。

トキソイドは毒素を抽出し毒性をなくしたもので、ジフテリア、破傷風がこれに当たります。

日本では、生ワクチン接種後4週間、不活化ワクチン・トキソイド接種後1週間は他のワクチンを接種できないことになっています。

● 同時接種について

現在1歳前の定期接種でも、B型肝炎、ヒブ、肺炎球菌、4種混合、BCG があり複数回の接種が必要なものも多く1回に1種類ではスケジュールを立てるのがとても大変です。

そこで1度に何種類か接種しスケジュールを簡単にす

ることで、通院回数を減らし接種漏れを防ぐことができます。

また心配される副反応については、一般的には同時接種により増えることはないといわれています。

現在日本で通常に接種するワクチンで同時接種してはいけない組み合わせはありませんし、本数の制限もありません。

もちろん、1度に何本も注射されるのが可哀想というご家族もあるかと思しますので、スケジュールなども考えて選択して頂ければと思います。

当院では毎週月曜、水曜、土曜の14時から16時まで予防注射外来を行っております。

完全予約制ですので、電話などで前日までにあらかじめ予約を取ったうえ、13時30分から15時30分に受付していただくようお願いいたします。

推奨接種スケジュールは日本小児科学会のホームページなどで、定期接種の対象となる期間はお住まいの自治体のホームページなどで確認できますし、当院でご相談いただく事も可能です。

ワクチンで予防可能な病気から子供さんたちを守り、また社会への蔓延を防ぐためにも、接種可能なワクチンはできるだけ接種しておくことが望まれます。

外来診療部門を拡張し診察 Feature

● 病院開院以来、初の外来診療部門の拡張

当院は、療養環境向上のために入院棟を新設し、平成27年7月より稼動を開始しました。その後、約1年にわたって入院棟関連の引越し後に生まれたスペースの有効活用策について検討を進めてまいりましたが、検討の末、昭和54年の病院開院以来初となる外来診療部門の拡張を行うことが決まり、この度、平成28年7月から9月にかけて改修工事が行われました。改修されたエリアは以前、「医局」や「病院図書室」として使用されていたところですが、入院棟完成に合わせて医学研究所の建物に移動したことで改修に使用できることになりました。

● 診察室が増え、機能が充実

まず、「診察室」ですが、小児診察室2室を別の用途に改修する代わりに「診察室7～10（小児科診察2室含む）」の4室が新設されました。診察室が新たに2室増えたことにより、内科の専門外来や初診外来などに、より手厚く対応できるようになりました。



新設された「診察室7～10」

「点滴室2」は、現在の「点滴室1」に加えて増設されましたが、従来の狭かった「点滴室1」とは異なり、とてもゆったりとしたスペースを確保することができました。加えて、小児専用の点滴スペースとして「小児点滴室」も設けています。



ゆったりとしたスペースの「点滴室2」



小児専用の点滴スペース「小児点滴室」

「処置室」は、以前の小児診察室2室のスペースを利用して作られました。今まで採血や注射などを行う「処置室」はかなり狭くご不便をおかけしておりましたが、新しい「処置室」は十分なゆとりを持って処置できる空間に生ま

室が増え、 機能が充実しました

れ変わりました。なお、小児の処置は今まで小児診察室内で行っていましたが、この度の改修で「小児処置室」という処置専用の部屋も。「救急処置室」や「地域連携室」なども今回の改修で不具合が改善され、より機能的になりました。



ゆとりのある空間を持った「処置室」



小児専用で作られた「小児処置室」

また、以前の外来待合スペースは狭く、患者さんの多い日には急遽イスを追加するなどの対応が必要でしたが、新エリアにも待合スペースが確保できたことで今後はこのようなことも解消されていくものと期待しています。

● 外来診療と入院診療を、両輪として充実

当院へは毎月、約140名から180名の新入院患者さんがおられますが、最近の数ヶ月をみると、4分の3が当院の外来からの入院、残りの4分の1が他の医療機関からの紹介入院となっています。当院がこの地域において、より多くの貢献をするためには、地域の医療機関や介護施設などと密接に連携するとともに、当院が得意としている領域についての専門医療(腎臓病、糖尿病、消化器病、小児疾患、小児療育など)の外来に、より多くの力を注ぐことも必要と考えます。

また、当地域における中規模病院としての小回りの利く診療を、引き続き充実していきます。症状を訴えて受診した当日にCT検査などの画像診断が迅速に可能であり、各種血液検査の結果を1時間以内に得ることができます。外来での投薬で良いのか、当院への入院治療の適応か、高度急性期病院への迅速な搬送が必要かなどの判断を、よりの確に行うように、水準を向上していきます。

質の高い外来診療、入院診療を行うためのハードが整いました。今後もより質の高い医療が提供できるよう、またより地域に求められる病院になれるよう職員一丸となって努めてまいりますので、重井医学研究所附属病院をどうぞ宜しくお願いいたします。

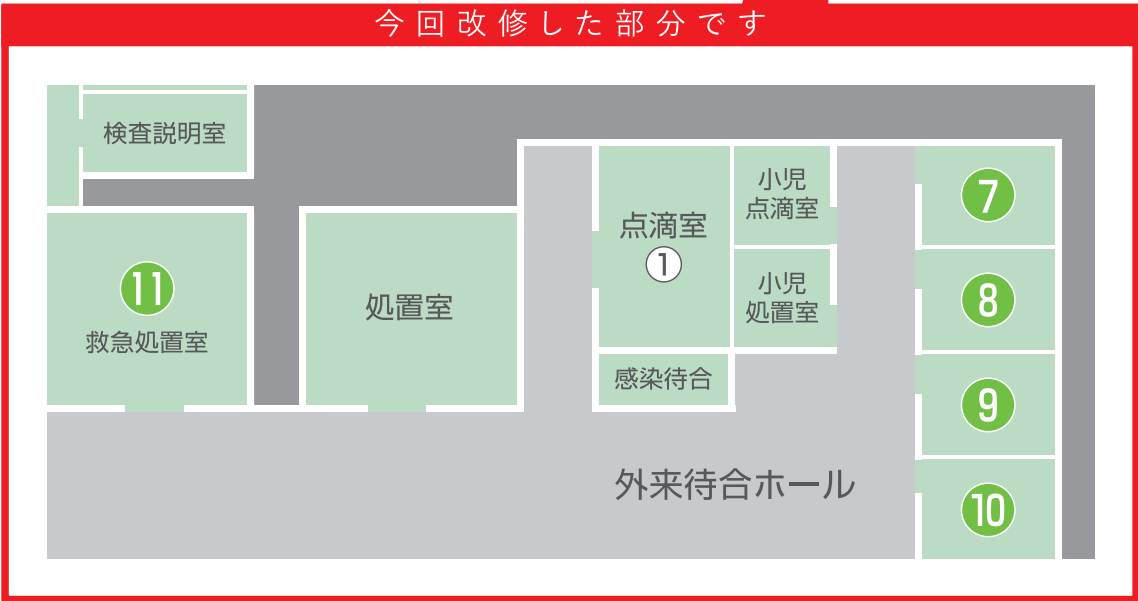




外来棟1階フロアのご案内



入院棟



NEWS

1
本が改訂出版されました
福島院長が執筆した慢性腎臓病の

当院の福島院長が執筆した「改訂版 慢性腎臓病 (CKD) 進行させない治療と生活習慣 原茂子・福島正樹共著」が株式会社法研より発行されました。

本書は、平成23年に発行された『慢性腎臓病 (CKD) 進行させない治療と生活習慣』の改訂増補版です。内容は、腎臓病に悩む人を減らすことに重点を置いており、慢性腎臓病の進行をくい止め、透析導入を回避・遅延させるための食事の工夫や運動方法を中心にメタボリック症候群と慢性腎臓病との関係、血液透析療法の仕組みなどがとてもわかりやすく記載されています。

慢性腎臓病について不安な方は、外来待合に置いてありますので一度お読みください。



2
今回、ハイビジョン対応の内視鏡システムを導入しました。従来ものものと比べて、画素数が大幅に増加し、微細な血管や粘膜の表層構造まで詳細に観察することができるようになりました。

ハイビジョン内視鏡検査では、得られた高詳細な画像から極早期の胃がんでも認識することができ、内視鏡診断の飛躍的な向上が期待できます。また、本体と同時にスコープも2本(経鼻用と下部消化管用)更新いたしました。今回導入した経鼻用スコープの先端の直径は、わずか5.5mm だそうです。経鼻内視鏡検査は、検査時の吐き気や不快感が大幅に軽減できます。

今までの経鼻内視鏡は、カメラの径が細いため画像の解像度が低く、経口の内視鏡検査に比べ、若干精度が劣るという欠点がありましたが、今回導入された経鼻内視鏡は、画像の解像度が改善され、経口内視鏡とほぼ同等の解像度となりました。

内視鏡検査を受けられる際は、経口または経鼻のどちらかの選択は主治医とご相談ください。



2
新たに導入しました
ハイビジョン対応の内視鏡システムを

公開講座

すこやかに生きるために

Open Lecture Schedule

入場無料／申込不要
駐車場有／無料ミニ健診

時間 13:30-15:00

2016

10/22 土

Lecture 1

「きいて安心、くすりの話
～薬の疑問これで解決!～」

講師 | 重井医学研究所附属病院
薬局長 佐々木 緑

11/12 土

世界糖尿病デー記念講座
展示会も開催予定

Lecture 2

「第1部 正しい知識で防ごう糖尿病
第2部 防ごう糖尿病
～食事のできること～」

講師 | 第1部: 医師 / 第2部: 管理栄養士

12/17 土

Lecture 3

「住み慣れた地域で安心して
過ごすために

～地域包括ケアシステムにおける
当院の役割～」

講師 | 入退院調整検討会メンバー

2017

1/28 土

Lecture 4

「発達障害児と共に

～子どもたちの笑顔から見る
療育の取り組み～」

講師 | 重井医学研究所附属病院
小児療育部 新 藍 & 安田 壽

Information 会場 & お問い合わせ

重井医学研究所附属病院
重井医学研究所 講義室
〒701-0202 岡山市南区山田2117
TEL 086-282-5311 / FAX 086-282-5345

